



高木 教夫

## 一、国民健康保険について 二、学校・公共施設の耐震化について

国民健康保険(国保)の広域化は、何の為に進められようとしているのか

**問** 広域化でのスケール・メリットは、人件費の削減とシステム改修費位で、国保会計上は何のメリットもないはずだが見解は、

**答** システム改修費は、一般的国保事務費等と言う解釈の中で一般会計からの事務費繰り入れであり、保険給付も財源が確保され、不足分については保険料で賄うシステムの為、国保会計上メリットはない。

**問** 国保の広域化で、高すぎる国保税問題や医療費抑制が出来るのかをお尋ねしたい。

**答** 保険者規模が大きくなっても、財政運営適正化計画と車の両輪のごとく取り組みが行われ、市町村も協力をすることで一定の成果が出ると考えている。

**問** 国保の広域化で、国保税(料)は、一般会計からの繰り入れが無くなり、国保税(料)が現在よりも高くなるのではないかと

**答** 今ご指摘のあった法定外繰り入れに伴うものは、財源確保できない事により、それは保険税(料)に転嫁せざるを得ない中、保険税(料)が上がると言うことは事実になるのか

と思います。その状況の中で、法定外に係致します財源の確保につきましては、国などに要望をして確保していくことが必要であるとの認識を保持している。

**問** 国保制度は、地域住民と自治体を作り上げ、市町村国保であるから実現出来た事が多々あり、

国保の広域化で住民の命を守る事が出来るのか。

**答** 広域化されても、国保法の精神・趣旨は変わらず、被保険者の命を守る事は可能である。また

被保険者の健康保持の取り組みでは、保険センターを中心に健康づくり・健康教育等の事業を行っているところで全体的に顔の見える取り組みと云うことでご理解を頂きたい。

学校・公共施設の耐震化について

**問** 東日本震災により、即座に人の命が掛かっている、特に学校の耐震化に取り組まないのか、手立てを施さない理由をお尋ねしたい。

**答** 平成27年開校をめざして、再編整備を進める事により、耐震化はもとより、教育環境の向上を進めていきたい。

## 一般質問



原田 健志

## 一、農業について 二、教育について

農業について

**問** 農業振興調査研究業務の事業に関連して、戦略的栽培作物の選定等の進捗程度を伺う。

**答** 町が有する農業的資源を分析するとともに、農業者の意向などを的確に把握し、施策に反映すべく精査しているところである。

**問** また6次産業化に向けた取り組みも、先進地の事例を参考に検討をする段階である。

**答** 町の農業施策に於いて関連深い物産センター販売をする作物に関して貯蔵できるジャガイモやタマネギ等貯蔵して販売をし易いよう料金等働きかけるなどして、増産を図るなど、端境期の対策としても有効ではないかと

**答** 物産センターのほうも柔軟に工夫をして対応していけるべしの話もさせて頂いている。

**問** これから町の特産的加工品の開発においては、使用材料も含めて消費者に誤解を招くような事のないよう信頼を得るようなを基本姿勢として、進めるべきと思うが。

**答** 農産物は、消費者と生産者の信頼関係であり、消費者の誤解を招くような事はないようにと考えている、現在販売の物にも誤解を招くような事のないように表示の面でも販売者に指導している。

また自由競争の中であり、一業者の商品を能勢町として積極的に推奨しているところとする考えは現在のところない。

**問** 英語教育が今までより低年齢から必修化される中、真の国際人になる為には、日本語力を始め母国に対する幅広い知識認識を持つ為の教育が必要と思うが。

また更に進み能勢町を愛する、町を正しく知る教育もすべきと思うが。  
**答** 小学校学習指導要領における外国語活動の必修化の内容は、日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深めることができるようにという事であり、母国についての認識を持つ事が大前提になっている。当然、より国語力・日本語力・歴史認識を深く教える必要もあると考える。

また能勢の事についても同様。小中高一貫教育のめざす子ども像に能勢を誇りに思える子と掲げている。体験的学習により理解を深めるカリキュラムを組んでおり、今後とも能勢についての教育を積極的に推進していくと考えている。

